

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより
第25号

ななえ古写真物語

VOL. 25

氷運搬ノ景

～大沼の氷り切り～

明治末～大正はじめ

大沼国定公園付近

nanae historical
museum collection



今年の冬、例年より雪が多いように感じるのは、私だけでしょうか？ 七飯町では大晦日から元旦にかけて大雪にみまわれて、外に出るのが億劫になってしまいそうでしたが、最近、所用で札幌方面へ足を運んだ際には、あまり雪が多いというイメージがなかったのが、他の地域ではどうだったのか知りたいところです。個人的には、積雪の多い正月を迎えることが、久しぶりのような感覚になっていますが、幼少の頃を思い返してみると、今年の状況が普通だったようにも感じます。これも、近年の温暖化の影響で、感覚が麻痺している証なのでしょうかね。

さて、昨年2月に発行したピチャリ14号では、大沼で切り出された氷の輸出風景を紹介しましたので、本号では、実際に氷を切り出している一枚を紹介しようと思います。

上の写真は、大正5年に作成された写真帖の中の一枚ですので、明治末頃から大正はじめに撮影されたと考えられます。そして、大沼湖上（周囲の山々から想像するに小沼湖か？）を覆う厚い氷を切り出している様子を記録したこの写真は、当時の氷切りの手法を知るうえで、大変貴重な資料でもあると考えます。

写真をよく見ると、中央に大型の鋸（氷切り鋸）を用いて氷を切り出している人が、そしてその左側には やっとこ のような形をした「氷挟み」といわれる道具を持つ人が確認できます。この道具で、水面に浮かぶ氷塊を挟んで持ち上げ、馬籠に積み込むのでしょう。それを示すように、さらに左側には、引き上げられた氷が並べられ、その後ろには、氷が積まれた2台の籠と馬の姿が見られます。

ところで、アメリカのマサチューセッツ州、セイラム・ピーボディー博物館にも、明治16（1883）年頃に撮影された大沼での氷切りの写真が保管されています。これは、当時北海道を訪れていたエドワード・S・モースという外国人が収集したものです。時代だけでなく海をも越えて七飯町の歴史を記す資料があるというのが、とても運命的で個人的に一度見てみたい資料のひとつでもあります。

現在、大沼で食用氷のための伝統的な氷切りは行われていませんが、それでも、毎年行われる「大沼函館雪と氷の祭典」に使用する氷は今も切り出されています。ただし、伝統的な鋸から近代的なチェーンソーへと道具は進化していますが・・・。

2日

夜の博物館・後期講座が開講しました。後期講座第1回目のテーマは「ななえリンゴ栽培史」と題し、七飯町とリンゴとの関わりや、世界中で七飯町にしかない「たむらリンゴ」などについて学びました。王林・ハックナイン・ぐんま名月の3品種を食べ比べて品種を当てる試食会もしました。

後期講座もあと2回となりました。雪が降り積もる季節になりましたので、お気をつけてお越しください。



26日

2009年最後のジュニア探検クラブは、午前中にそば打ち、午後からはもちつき...と盛りだくさんな内容となりました。友の会の皆さんに教えてもらいながら、そば打ちの開始です。普段お店で食べるそばは太さが同じですが、実際に挑戦してみると太くなったり細くなったり...。均等に切る難しさを実感したようです。

午後からのもちつきは館内で行いました。こどもたちの杵をつく力強い音と楽しそうな歓声が館内に響き渡っていました。



27日

ふぁみりーでいみゅーじあむで、臼と杵を使ってもちつきをしました。杵はこども達には重く、持つとよるめいたりしていましたが全身を使って力いっぱい頑張りました。

その後はつきたてのもちであんころもちときな粉もち作りに挑戦。もちを小さくわけて、あんこを包んで丸く形を整えたら、あんころもちの出来上がり。きな粉もちも、きな粉がつきやすいようにもちを少しお湯につけてから、きな粉の上で転がしました。もちを丸めたり、転がしたりする作業が楽しかったようで、あっという間にお皿いっぱいのもちが出来上がりました。最後に、みんなで試食しながら絵本の読み聞かせを聞きました。

2月の予定

1	月
2	火
3	水 節分 夜の博物館
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水 特別展Close
11	木 建国記念の日
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ
28	日

2月の休館日はありません。

手打ちそばの会 開催

歴史館友の会主催のそば打ち講習会が12月2日に開催されました。会員を対象とした講習会には10人以上の参加者が集まり、アドバイスを受けながら約50人前を打ちました。(A)

編集後記 ~tawagoto~

この「ピチャリ」を発行するようになって3年目に突入した。少しでも多くの方に、当館の活動や七飯町の歴史などを発信できればと考え始めたのが、ついこの間のような気がしてならない。

無理やり書かされたり、校正してくれているスタッフには、いつも感謝している・・・と、この場を借りて柄でもない事をいながら、今年も皆様にご愛顧いただけるよう頑張りますので、ご愛読のほど、よろしくお願ひします。(やまだひさし)

Pichari

〜ピチャリ〜

第25号
平成22年1月20日 発行
七飯町歴史館
〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp